

<「知るっば!久留米」 令和3年12月9日(木) 12:30~放送分>

みみて楽しむ久留米の昔話 ～第2回～ 「平知盛の墓」

<ゲスト：久留米シティプラザ事業制作課 竹下久美子さん>

《音源：みみて楽しむ久留米のおかし話I》

『平知盛の墓』

今から800年も昔から田主丸町に伝わる話です。

大将の知盛は覚悟を決めて

「ここは、われの首を差し出せばすむこと。あとは、そなたたちにたのんだぞ。」

と供のみんなに言いました。

すると、重臣の伊賀平内左衛門家長(いがへいないざえもんいえなが)は、

「知盛殿、そんなことはさせませぬ。殿は我々の大将として、もう一度、平氏の世の中をつくって
いただかねばなりません。」

家長はこう考えていたのです。

自分が大将の知盛になりすまして、身代わりになって、知盛を生き延びさせようというのです。

そして、いつの日にか、再び、平氏の世を築いてほしいと考えたのです。

すると家長は迷っている知盛の鎧兜をもぎとって、自分が一行の大将の姿に変身しました。

そしてすぐさま、一行のまわりを囲んでいる合原外記(ごうはらげき)の馬を目指して、
突き進んでいきました。

「おい、その者ども、よく聞け。我は、平知盛なるぞ。みなを討ち取ってみせるぞ。」

「うそをつくな。そなた、知盛にあらず。知盛をここによこせ。」

と言うなり、周りからいっせいに竹井城の草野氏の軍勢が襲いかかってきました。

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

なんだか気になるところでお話が終わってしまったのですが、

今月は、久留米シティプラザが無料動画配信サイト(YouTube)で配信中の

『みみて楽しむ久留米の昔話』をテーマにお送りしています。ゲストはこの方です。

ゲスト：竹下さん(以下「竹下」)

こんにちは。久留米シティプラザ事業制作課の竹下久美子です。

よろしくお願いします。

坂本 今週は第2回目で『平知盛の墓』というテーマでお送りしますが、
平知盛のお墓が久留米に実在するんですか？

竹下 この昔話の舞台は、800年以上前に久留米を治めていた草野氏の居城・竹井城からほど近い竹野の里、現在の田主丸町です。
中尾地区に平神社があるのですが、その境内に平知盛の墓と伝わる供養塔があります。
そして、先ほどでてきた知盛の身代わりを名乗り出た家臣の伊賀平内左衛門家長の墓もすぐ近くにひっそりとあるんです。
初めて訪れたときは「昔話と同じ人だ!」と鳥肌がたちました。

坂本 平知盛とは、どのような人物なのですか？

竹下 平家がもっとも栄えた時期の棟梁・平清盛と後の二位の尼・平時子との間に生まれた次男です。
知盛の妹・徳子の子どもが安徳天皇なので、安徳天皇にとっては伯父にあたる人物ですね。
「平家物語」では、源平合戦の英雄として描かれています。
歌舞伎が好きな方なら、“碓知盛”と言うとピンとくるのではないのでしょうか。

坂本 碓を担いで海に飛び込むという有名な自害のシーンですね。

竹下 浮かび上がってさらし者となるのを避けるために、碓を担いだとも、鎧を2枚着て重石にしたとも言われています。
実際、知盛の兄・宗盛は、海から引き上げられて源氏に捕まり、後に処刑されています。
日本人は、昔から“滅びの美学”といいますが、散り際の美しさを好む傾向にありますよね。
英雄の最期はカッコよく「こうであってほしい」という人々の願いから生まれた名シーンかもしれません。
一方で、能の「船弁慶」のように、知盛が怨霊となって義経を襲うというお話もあつたりします。

坂本 散り際の美しさというのは、桜がそうですね。
歌舞伎や能以外でも、知盛が出てくる作品がありましたね。

竹下 3月に久留米シティプラザで上演した「子午線の祀り」では、
平知盛の役を野村萬斎さんが演じました。
源義経に追い詰められ平家の滅びを予感しているのに、大将として戦い続けなければならない。
そんな知盛の葛藤する姿が描かれていました。
昨今の、コロナ禍での息苦しさや生きづらさに共感するものがありました。

坂本 要は「平家物語」を題材にした、人の儚さを描いた作品ですね。

竹下 そうです。知盛は壇ノ浦で、潮の流れの変化という人間が抗うことのできない力を目にして、
平家の滅亡を覚悟しました。
大自然の理(ことわり)は、時に非情で、それは今も昔も変わりませんね。

坂本 お客様の反応はいかがでしたか？

竹下 公演後のアンケートでは、「水天宮ゆかりの作品だから久留米で上演されたのですか？」と気づいてくださる方もいて、「その通り!」と拍手を贈りたくくなりました。久留米に伝わる昔話は、「子午線の祀り」のその後です。もし、知盛が生き延びて久留米へ逃れて来ていたら…というお話ですね。

坂本 やっぱり、久留米でも知盛は戦いに敗れてしまうのでしょうか？

竹下 それは、『知盛の墓』というタイトルですからね。ただ、昔話によると、女性と子どもは助けられて、その子孫の方が今でも供養に訪れているそうです。地元の方にお話を聞くと、「この地区に住む人たちの祖先は平家だよ」っておっしゃっていました。興味深いのは、源氏の追っ手から逃れるために“平(たいら)”という姓を変えた方もいるとか。

坂本 落人伝説や言い伝えは全国にありますからね。

竹下 色々あるようですが、取材で聞いたのは「サカナシ」さん。坂が無いから、たいら、平(たいら)…平家ですよ!なるほどと思いました。サカナシ姓の方は、もしかしたら平家の子孫かもしれません。そんなふうにと考えると、800年以上も昔のお話が、グッと身近に感じませんか？

坂本 なるほどね。私は坂本なので、サカナシではないので、平家の子孫ではないですね。最後はまさに「おあとがよろしいようで」みたいになりましたね。(笑)
竹下さん、今週も興味深いお話をありがとうございました。
他にもいろいろな昔話が、久留米シティプラザのホームページや YouTube サイトにありますので、ぜひ聞いてみてください。
次回は荒木に伝わる『名剣大明神(みょうけんだいみょうじん)』をテーマにお聞きします。
お楽しみに。